ボツワナ通信 NO.5

引っ越し

赴任してからなかなか家が見つからず、３ヶ月間ドミトリーで暮らしていましたが、ようやく引っ越しをする事ができました。本来であれば配属先である柔道連盟が探すはずなのですが、JICA が活動に専念できる立地に良い物件を見つけてくれました。安全面でも細心の注意を払っていただき、バークラーバーに加えて２４時間態勢のセキュリティー会社も入れてくれました。ワンベットルームという狭い室内ですが、３カ所にセンサーが設置されており、安全対策には万全の状態で生活しています。とは言っても、一番しっかりしなければならないのは、自分自身ですので、この与えていただいている環境を当たり前と思う事無く、今後も安全第一の生活を送って行こうと思います。また、こちらでの生活は常に気を張らしている必要があり、日本がどれだけ平和な国であるかを改めて実感しています。

村見学

同僚に「本当のアフリカ(ボツワナ)を見せてやる。」と言われて、任地首都ハボロネから少し離れた場所にある彼が住んでいる村に連れて行ってもらいました。槙で火を熾して料理を作り、深刻な水不足に悩まされている人々の生活を目の当たりにしました。無邪気に裸足で走り回る子供達を見て同僚が「いずれ柔道が首都だけではなく、地方にも広まって欲しい。」と語っていました。彼の夢は、ストリートチルドレンンに柔道を教える事です。純粋に柔道をこの国に普及したいという彼のような熱い柔道家に出会えることができ、本当に幸せに感じています。

伝統ダンスコンテスト

　ボツワナの人々が愛するダンスの発表会に招待していただきました。いくつかのグループが練習を重ねてきたそれぞれのダンスを発表し、競い合う場です。当日は、多くの人が会場に詰めかけ、大きな盛り上がりを見せていました。裸の男達が身体全身を使ってリズムに乗り、息を合わせて踊る姿は迫力がありました。最後には、表彰式が行われました。

柔道着授与式

　赴任して４ヶ月が経った頃に柔道着の授与式なるものが行われ、改めて柔道連盟に歓迎された形になりました。授与式には、テレビ局から記者が来て、ボツワナにおいて初めてのインタビューを受けました。かっこいい事を言おうとして臨んだインタビューは、案の定ボロボロでしたが、テレビと新聞で紹介していただきました。このような機会を通じて柔道の知名度向上にも繋がる事を期待しています。

協力隊思考

「現地にある物でなんとかする」という協力隊思考で、要らなくなった自転車のチューブを大量に自転車屋でもらいナショナルチームのトレーニング用具に再利用しています。選手達にとっても新鮮なようで、今ではお気に入りのトレーニングです。飽きさせない為にも色々な試みを取り入れて行きたいです。
日本人は、真面目で言われた事は割としっかりやりますが、こちらではそう簡単にはいきません。集中力を継続させる工夫をしている毎日です。

二足の草鞋

現在、昼から小学校を巡回指導して普及活動に力を入れ、夜はナショナルチームのヘッドコーチとして選手の強化を目指して活動しています。この国の頂点と底辺を見ることができている今の環境はとても恵まれていると感じ、日々感謝しながら指導をしています。今月中旬から学校が休みに入り、再開されるまでの３ヶ月間は、朝から夜まで柔道に専念でき、柔道中心の生活を送る事ができるので強化のチャンスです。選手の限界をまだ知らないので、顔色を伺いながら少しずつ強度を上げて行こうと思います。

２０１３年１０月３１日　青年海外協力隊　ボツワナ　柔道隊員　井坪圭佑